

いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。

コロナコロナで気が付くと年末。これほどイベントの少ない1年は誰しも初めてだったでしょう。でも実

は今年、天空では20年に一度の木星と土星の大接近(グレートコンジャンクション)や一世紀(100年)を超える200年に一度のエレメントを変える大転換期を迎えているのを皆さまはご存じですか？

エレメントというのは、占星術で定義されている、この世を構成する元素のこと。火・土・風・水の4種類があり、これまでは「土の時代」でした。土の時代では、金銭・物質・権威等が重視されます。対して風の時代では、知性・コミュニケーション・個人等が重視されるようになるのです。

「木星土星大接近」

この情報は僕も知らなかったのですが、東京の知人のセブな社長から教えて貰ったんです。前から天体観測に興味はあったんですが(僕が住んでいる御坊は和歌山の片田舎。星が綺麗なんです)「12月21日に木星



と土星が大接近!？」の情報に興奮、その知人の師匠に聞いてもらって、買ったのが、ビクセンの望遠鏡。思っていたものより大きなものが届き。そして

操作は思っていたより難しそう。今回の大接近でちゃんと観ることができるか、ちと不安。それと気づいたのですが、天体観測もスキーと同じで天候に左右されるんですね。雨や曇りでは観れない。でもご縁があれば叶うはず。大接近は一日だけでもその後、離れるのは少しずつ。十分感動できる近い距離でしょう。年内にチャレンジします。

「土の時代から風の時代へ」

2020年は20年に一度の木星と土星の大接近(グレートコンジャンクション)だけでなく、200年に一度のエレメントも変わる節目、グランド・ムーテーション(大なる変化)と言われている。星座は火、地、風、水の4つのエレメントに分類されていて、今年



は土(地)から風になる大きな節目。土の時代が大切にしてきた価値観が、権力、物質、実績重視。そして新しく迎える風の時代は、目に見えない物、情報、人間関係、コミュニケーション、人間性、精神的なものを重視する時代になると言われています。ネットで検索するとこんな情報で溢れています。車や家を欲しがらない若者が増えてきた現状、ネットで飛び交う情報にいい意味でも悪い意味でも依存している現状を考えると当たっていますね。200年ごとに変わるエレメント。人生100年と考えても、ひとつかふたつの時代しか経験できない訳です。この2020年で55歳の名倉。土と風とを半分ずつくらい経験できるのはちょっとお得な気がします。

「住野よるは男! ? (*_*;)」

「君の臍臓を食べたい」が大ヒットの住野よる氏。この作品、女子高生の視点から描かれていて、高校生の男女の青く、甘酸っぱい切ないお話。著者がまさか男性とは意外! ショッキングしながらオーディオブックで聞いたあと、映画を観たのですが、オーディオブックの勝ちですね。つまり映画は原作負けです。友達の結婚式のシーンはいらんでしょ。それから自分にないものに惹かれるはるきに対して、さくらが言うセリフ「私は君に憧れていた」、クライマックスのなおきがさくらの携帯を確認して「届いていた」とつぶやくシーン、これらを削っちゃいかんでしょ。ただ、住野よるさんはタイトルのつけ方がうまい。なんだ! 一気に引き寄せます。この本の中で、「昔の人はどこか悪いところがあると他の動物のその部分を食べていた」というくだりが出てきて、さくらははるきに「君の臍臓を食べたい」というのですが、臍臓の疾患というより、自分の中に無いはるきにあるものを取り込みたいって意味なんですね。途中までは盛り上がりませんが、後半は名言も沢山登場。でも映画はダメ! 原作の方がいいです。でも実は僕、住野よる氏の作品は、この「君の臍臓を食べたい」からではなく、「青くて痛くて脆い」をオ



ーディオブックで聞いたのが最初でした。これもタイトルに惹かれたことが大きかったですね。君臍と同じで、「ん、一体なんだ!？」とってしまいますね。でもこっちの方が、タイトルが巧みかも知れません。何せ「脆い」と「モアイ」を掛けているわけで(笑)。中二病のお話。または単なる言い出せない恋愛感情の歪んだ表現とも捉えられるかも。そう言ってしまうと、元も子もなくなってしまうのですが、ちょうど半分くらいでどんでん返しが入ってきて、思っていたより深いぞ!と思わせますが、君臍のような読み上げたあとの爽やかさはないです。「秋吉はもうこの世界にはいない」このくだりがキーです。誰でも考え方って変わるものですが、その変化が大きいとその人自体の存在が無くなっていると感じるのも仕方ないこと。でも自分は自分、人は人です。自分の中のその人を変えないことも自由ですが、人が変わるのも自由。そこが協調できないのはやっぱり中二病ですね。君臍が静なら青脆が動。君臍が明なら青脆が暗。青脆の映画の予告を観たら、キャッチが「住野よるが君臍をぶっ壊す為に作った青春サスペンス」となっていたので納得(-_-;)ただ、この2作品には共通点があります。それは半分くらいまではあんまり面白くないということ。けっこうだらだらで眠くなります。でもそこでやめたらもったいないですと締めておきます。どれかひとつだけなのであれば、声優も上手だし、君臍をオーディオブックで聞くことをお勧めします。



「ネット時代の新ビジネス」

少し前にカンブリア宮殿で観たのですが、コロナで旅行が超自粛中の現在、大手旅行会社のHISが売り出したのが、

「オンライン体験ツアー」

同社の公式HPにあるキャッチフレーズは「旅はオンラインで行く。そんな時代がやってきた。旅は、時代とともに変わり続けてきた。道を歩いていく旅。船で海を渡る旅。飛行機で空を飛ぶ旅。そして、ふたたび、旅が変わろうとしている。まさに、「旅」革命。ネットで世界とリアルタイム&双方向につながるから、旅がもっと気軽に、もっと便利に、もっと楽しくなる。最先端の旅は、ここにある。」

補足すると、ウェブカメラで繋がった現地

の案内人と双方向でやり取りしながら、外国の街並みをリアルタイムで案内してくれます。お店にも立ち寄ってくれて、買い物も。小物や衣服など、案内人が手に取り、カメラ

で映してくれて、気に入った物があれば購入でき送って貰えます。また飲食店に入ったところで、自宅のインターフォンが鳴り、訪れている国の郷土料理が宅配で届くのです。なかなか巧みですね。そしてこのサービスは数千円。コロナが落ち着いても、このニーズは残るでしょうとHIS社長。現地にいきなり行くのではなく、気軽にお試し体験する習慣が根付くはずとのこと。ITの進化普及が自由な風の時代を後押しするのでしょうかね。

そしてとてもニッチなサービスを提供するのがウナギトラベル。これは先日読んだ落合陽一氏の著書「これからの世界をつくる

仲間たちへ」で紹介されていたのですが、ぶっとなでます。自分の代わりにぬいぐるみ

に行ってもらうパッケージ旅行。

インスタ映えする写真がほしい、それも自分の分身であるぬいぐるみを映してほしい。また、自分は病気で行けないけど、自分の代わりに行ってきてほしい等。1000人中1人もいないニーズだと思いますが、ネットでコストをかけずに広報できるので、可能となったビジネスモデルなのでしょう。しかし「ウナギトラベル」のネーミングはどこからなのでしょう

か、住野よる氏とは違うセンスが感じられますね(笑)

最後はクライアントの女性が始めた副業。本人に了承を取っていないので、詳しくは書きませんが、とてもセンスが良いです。ヤフオク、メルカリでセドリ等、ネット通販をしている方は多いと思いますが、彼女はそこには手を出さず、海外の市場だけがターゲット。日本らしさを感じられる商品のみを扱い、2

年前から海外のショッピングモールで出店しています。当初はアメリカからの注文だけでしたが、今

は香港、オーストラリア等に広がり、先日はルーマニアの歌手から注文が入ったとのこと(*_*。このビジネスモデル何がいいかというと、デフレの日本とインフレの欧米とのギャップを追い風にできること。つまり、いい物なら、いい値段(高い値段)で売れるのです。個人でこんなビジネスができるなんて、本当に自由な風の時代です。



「天使のくれた時間」

amazonプライムでたまたま見つけた2000年の古い映画ですが、見終わって、気持ちがいい作品だったので紹介します。



たかという、もう一つの世界にスリップしま

す。そのジャックは、タイヤ販売の会社に勤める冴えないサラリーマン。貧しくもないけど、裕福でもなく、子育ても大変で、毎日忙しい日々。でもケイトとは仲良しで

す。その世界しか知らないケイトはその人生を受け入れ楽しそうですが、独身で優雅な世界からきたジャックは、くたくた。タイヤ会社の自分の机の引き出しにしまってあったワインを見つけて、「そりゃ飲まなやっとな」と昼間から飲むシーンが印象的。裏切ら

れることなく予想通りに進む映画ですが、画面の子育てのように、慌ただしくあつという間に観てしまえる作品です。そして心が温くなる作品。ここ最近とても寒い日が続いていますので、年末に暖かい鍋のようなこの映画はお薦めです。



「ファイアースティック&アレクサ」

最近、amazonプライムビデオで観た映画の話をよく書いています。このサービスとても安価でいいのですが、ファイアースティックのリモコンの使い方がよく分からなくて、映画の検索ができなかったのです。それを先日アレクサ(スマートスピーカー)が解決してくれました。ファイアースティックと同じWi-Fiにアレクサも接続させていると、「アレクサ、プライムビデオをかけて」と話しかけて、続けて映画のタイトルをリクエストすると、ラインナップにあれば、映画のタイトルが画面に表示されるんです。とても便利。皆様はご存知でしたか？

さて、2020年の12月もいよいよ終わります。先月号で広報させて頂いた通り、来年から少し違う形でかわら版、事務所通信をお届けします。紙媒体としてはA4版の大型ハガキで「きしゅう会計厳選これだけかわら版」をお届けします。是非読んでほしい絞った内容です。またそのハガキに事務所のホームページの更新情報、ブログやYouTubeのQRコード等を載せて、デジタル化を進めてスマートに情報をお伝えしていこうと思っています。乞うご期待！

コロナ禍で交際費を使う機会も少なかったのも、サプライズが起こればいいなと、年末ジャンボを同封させて頂きました。全てのお客さんに「連番で3枚」、うまいけば10億円です。当たれば黙ってご馳走してください。お礼と口止め料として美味しく頂きます(笑)宝くじを用意した後に「今年も日めくり貰えるんですね」なんて言われてしまったので、今年は気前よくダブルでプレゼント(^_^)

それでは よいお年を！